

文化財センター通信

【かざぐるま】

# 風車

第 31 号

平成19年1月22日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

## 第3回 和歌山県文化財センター シンポジウム

# 高田土居

—室町時代の守護拠点から鑄造工房へ—



溶解炉転用井戸

全国で初めて完全な形で発見された  
溶解炉などの遺物展示も行いました☆

開催しました！！



条里型地割が残る南部平野の遠景

平成18年11月25日（土）みなべ町生涯学習センターで、みなべ町教育委員会との共催による第3回和歌山県文化財センター・シンポジウム『高田土居、室町時代の守護拠点から鑄造工房へ』を開催しました。

シンポジウムでは、当センター技師川崎雅史による発掘調査成果報告をはじめ、弓倉弘年氏、坪之内徹氏、五十川伸矢氏の各専門家による講演がおこなわれました。

当日は約60名もの参加者があり地元での関心の高さがうかがえました。



会場の風景



討論会の風景

シンポジウムを通じて、「高田土居」の価値を改めて確認することでき、この遺跡を守り伝えていくことの重要性を再認識させられました。

### — 第31号の主な内容 —

1. シンポジウム「高田土居」
  - ・シンポジウムの概要
  - ・シンポジウム総評
  - ・アンケート結果報告
2. 第2回考古学基礎講座  
「古墳時代の滑石製模造品の製作」

# シンポジウム総評

日時：平成18年11月25日（土）

会場：みなべ町生涯学習センター

主催：（財）和歌山県文化財センター  
みなべ町教育委員会

**\* 地元でシンポジウムを開催 \***

「高田土居」は条里型地割が良好に残る南部平野の中に築かれた城跡で、高速道路や県道の建設工事などに伴い文化財センターによる発掘調査がおこなわれました。調査以前までは中世の館跡と理解されていましたが、調査の結果、内郭と外郭を備えた大規模な城で紀伊国守護の拠点であったことや、城が廃絶した直後に跡地を利用して鑄造工房やその屋敷地が造られることが分かりました。今回のシンポジウムは、調査報告書が刊行されたのを機会に、発掘調



講師の方々の顔ぶれ

査の成果を町民はもとより研究者の人々に広く知ってもらおうことと「高田土居」の位置づけと変遷を検討することが目的でした。また、当日は「高田土居」から出土した遺物を、城に関わるものと鑄造工房に関わるものと一緒にそれぞれコーナーを設けて展示し、パネルで解説しました。シンポジウムではまず、当センターの川崎が「高田土居城跡の発掘調査成果について」報告し、和歌山県立向陽高等学校教諭の弓倉弘年氏から「守護拠点としての高田土居城」、奈良女子大学講師の坪之内徹氏から「中世集落論と高田土居城」、京都橘大学教授の五十川伸矢氏から「高



遺物の展示風景

田土居と鑄造遺跡」と題した講演をしていただきました。弓倉氏は中世文献史学の専門家で、紀伊国守護が発給した文書などから「高田土居」が守護所であったと分析し、考古学の成果と文献史学の内容が合致することを指摘されました。坪之内氏は考古学の専門家で、しかも文献にも通じており、発掘調査の事例や、文献資料の事例を詳しく説明され、守護所などの政所が領主の私宅から移り変わることなどを説き、「高田土居」の成立と変遷には更なる検討が必要であると述べられました。五十川氏は考古学の鑄造関係の第一人者であり、「高田土居」で検出された



溶解炉の展示風景

鑄造遺構や、鑄型や溶解炉などの出土遺物について詳しく説明され、16世紀代に城の跡地で鑄造がおこなわれた意義に言及されました。講演後の質疑応答は十分な時間が取れませんでした。今回のシンポジウムで「高田土居」は城と鑄造のどちらをとっても、政治史・地域史等を考えていく上で貴重な遺跡であるということを再認識しました。最後に、みなべ町教育委員会教育長の荒堀氏より、「高田土居」の一部を町が買収したことや、今後、買収地を保存整備して地域の歴史的財産として活用すると言う嬉しい報告がありました。（川崎雅史）

# ♪ アンケート結果 ♪

高田土居のシンポジウムで、  
 回答していただいたアンケートの結果を  
 報告します。今年度は、普及活動に力を入れて  
 きましたが、まだまだ反省の余地は多く、アン  
 ケートは皆さまの意見を聞くことのできる  
 貴重な機会となっています。  
 (\*印=報告者コメント)

## ①参加者について

一般：49名 男性39名(79.6%)

女性10名(20.4%)

発表者：3名(センター職員除く)

センター職員：8名 合計=60名

\*もう少し参加人数を増やしたいと  
 ころです。文化財センターは、普及活  
 動などを通して、県民のみならずの文  
 化財に対する理解や認識が深まること  
 に貢献したいと思っています。もっと  
 多くの方に参加していただけるように、  
 広報の方法を充実させるなどして、今  
 後も努力を続けていきたいと思いま  
 す。

## ②参加者住所(一般49名中)

県内：45名(91.8%) みなべ町23・

和歌山市5・海南市2・高野町2・

有田川町1・御坊市3・美浜町1・

田辺市3・上富田町2・不明3

県外：2名(4.1%) 大阪府2

不明：2名(4.1%)

\*全体49名のうち開催地であるみなべ  
 町が約半数を占めました。地域の歴史  
 や文化財に興味を持ってもらえている  
 証拠だと思います。

## ③アンケート集計(回答数16名)

### ◎催しをどこで知った?(複数回答)

♫ 新聞：6名 ♫ ポスター：0名

♫ 知人：5名 ♫ HP：0名

♫ ちらし：3名 ♫ 職場：0名

♫ その他：3名

### ◎参加した理由は?(複数回答)

♫ みなべ町の歴史に興味：11名

♫ 講演会が好き：0名

♫ 発掘調査に興味がある：9名

♫ 地元をもっと知りたい：2名

♫ センターに関心がある：2名

### ◎内容は?(複数回答)

♫ おもしろかった：10名

♫ 少しおもしろかった：0名

♫ 少しおもしろくなかった：0名

♫ おもしろくない：0名

♫ わかりやすかった：3名

♫ 少しわかりやすかった：1名

♫ 少し難しかった：1名

♫ 難しかった：0名

♫ 無回答：2名

### ◎今後このような企画に参加する?

♫ 絶対する：6名

♫ 興味ある内容ならする：9名

♫ 時間があればする：0名

♫ 近くならする：1名

♫ その時考える：0名

♫ しない：0名

### ◎センターを知っていた?

♫ 知っていた：8名(50.0%)

♫ 知らない：7名(43.7%)

♫ 初めて知った：1名(6.3%)

### ◎センターの催しに参加したこと?

♫ よく参加する：9名(56.2%)

♫ 一度だけある：2名(12.5%)

♫ 今日初めて：4名(25.0%)

♫ 無回答：1名(6.2%)

### ◎実際に現地説明会などで発掘現場を見たことは?(複数回答)

♫ 地元の現地説明会に参加：10名

♫ 県内の現地説明会に参加：3名

♫ 各地の現地説明会に参加：4名

♫ 参加したことがない：2名

♫ 無回答：1名

### ◎みなさまの声(アンケートより)

☆よかった点

・(遺物展示は)実感できて良い。

・(遺物展示について)高田土居↓铸造  
 所と変遷がよくわかる展示だった。

・高田土居の歴史的な位置づけをわかり  
 やすく示していただいた。

・高田土居铸造遺構の性格がよくわかっ  
 た。

☆悪かった点・ご意見

・(遺物展示について)もっと大規模な  
 展示を拝見したいと思います。

・広報をもっと駅周辺でお願いします。

・報告や議論自体はよかった。

\*初めて参加された方もいて、地域の  
 歴史について考えるきっかけになれば  
 うれしく思います。内容は満足してい  
 ただけた方が多かったようで、安心し  
 ました。内容の濃いシンポジウムなの  
 で、広報を工夫し、当該市町村以外か  
 らの参加者も増えるようにしたいと思  
 います。

(報告 仲原知之・松山千穂)

## 第2回考古学基礎講座

(報告：富加見泰彦)

せきせいもぞうひん

### ～古墳時代の石製模造品の製作～ 平成18年12月10日(日)開催

12月10日(日)、古墳時代の石製模造品を製作しました。滑石と紅簾片岩を使った古代



飛び入り君もがんばっています。



紅簾片岩を鋸として使用しています。



刀子の模造品を造っています。

方法で11名の参加者が約2時間思い思いの作品を作りました。大人のための、考古学講座でしたがかわいい飛び入りもありました。うーむ、今回は参加者も少ないし特別に許そう。最後まで古代の方法にこだわった参加者もいましたが、文明の利器を頼りに作る人も続出。当時の人たちの苦

労がわかっていただけかな。石製模造品は、古墳時代の祭祀具で、副葬品として現れ、葬送儀礼の重要な要素となります。初期のものは実用品をモデルに器物や・人・動物などを石で小型に模造しています。

最初は数も少ないのですが5世紀になると滑石と呼ばれる軟らかい石材を使用するようになります。和歌山では主に紀ノ川南岸で産する石材です。

各種農耕具や鏡、剣、短甲、機織具などの形をした石製模造品や各種玉類が多量に製作、使用されるようになり、小型・扁平で粗雑な造りのものが大量に出土するようになります。小さな孔があげられているので、その孔に紐を通して、七夕の笹のように榊の枝などにぶら下げて葬送のマツリに使い、使用後は、遺体とともに墓に納めたと考えられています。

今回、使用した滑石は、紀ノ川中流の旧桃山町産の滑石を使用しました。磨くと非常にきれいなトラ模様が現れるのが特徴でしたが、加工の段階で、剥離することが多く、みなさん悪戦苦闘の連続でした。お疲れ様でした。でも、結構楽しんでいただけたのではないのでしょうか。



みなさんの出来栄はどうでしょうか。



完成した石製模造品です。

## 風車 第31号

平成19年1月22日 発行  
(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel: 073 (433) 3843

Fax: 073 (425) 4595

e-mail: maizou-1@wabunse.or.jp

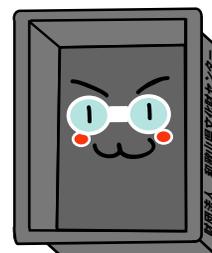
URL <http://www.wabunse.or.jp>

### 《編集後記》

今年度もあと3ヶ月。最後まで気を引き締めて頑張りたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いたします。

(松山)

### 【新キャラクター紹介】



はこ助

\*これからもどんどんキャラクターを作っていきたいと思いますので、何かアイデアがあれば教えてください。